

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671200255		
法人名	有限会社 敬友会		
事業所名	グループホーム花乃苑石井		
所在地	徳島県名西郡石井町藍畑字東覚円70-3		
自己評価作成日	令和5年1月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和5年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員、利用者様と一緒に清潔を心掛け、また、苑内に日の光をいっぱい取り込み明るく心地よい空間づくりをしている。また、中庭が広く、桜の木やさざんか、柿の木があり季節を感じて頂けるようにしている。離職率も低いおかげもあり、利用者様と信頼関係が出来ている。家族様には苑での生活を便りですららせていただき、利用者様の生活を身近に感じていただける様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に田園が広がるのどかな環境に位置している。“住み慣れた地域の中で自分らしく笑顔の絶えない我が家を目指し信頼あるケアを提供します”という理念を掲げ、利用者一人ひとりと向きあい、気づきの視点を大切に、支援に取り組んでいる。また、体の不調やゆがみを正しい形に戻す“しんそう療方”を取り入れ、利用者に応じた支援に努めている。食事は、献立づくりから調理、片付けなど、職員と利用者と一緒にやっている。その日の食材から、利用者とお話しあい、献立づくりを行うなど、楽しく家庭的な雰囲気づくりに繋げている。新型コロナウイルスの流行下においても、利用者が散歩や運動ができるよう広い敷地内に遊歩道を設置するなど、気分転換を図っている。利用者の希望の場所へドライブに出かけるなど、閉塞感を感じることがないように工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で、理念を読み上げる。苑内数か所に展示し、職員全員が同じ方向に向かいケアに携わっている。	事業所では、地域密着型サービス事業の意義をふまえて、職員間でアイデアを出しあって、理念を作成している。理念は、ユニットごとに掲示し、共有化を図っている。新人職員には、研修で理念について伝えている。今後、感染症(コロナ等)の流行下の現状に即した理念に見直すことを検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナもあり、地域との交流は控えている。	事業所では、感染症の流行下において、近隣住民の差し入れを受けるなどして、交流している。また、地域の老人会や幼稚園、保育所等と手紙やビデオレター等で連絡をとりあうなど、交流方法を工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は、活かせる場を作れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議が中止になっているが、2か月に一度、役場に業務報告を行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、事業所の現況や行事、研修、感染症対策等について書面にまとめ、各委員に報告しているが、各委員から意見を得て、双方向的な会議となるまでには至っていない。	今後は、事業所の報告内容について各委員から意見をを得る工夫をすることが望まれる。意見を集約し、共有することで、サービスの質の向上に活かすことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談がある時等に関わって頂いている。問題があれば一緒に取り組んで下さる。	管理者は、毎月、町担当窓口を訪問し、事業所の報告書を提出するなど、顔の見える関係づくりに努めている。日ごろから、困難事例や疑問点等を相談し、助言を得るなど、問題解決に向けた協力体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の勉強会を実施している。拘束をしない為にどうすべきかを常に考える。拘束をしない事で起こりうるリスクを家族様と十分に話し合い理解を頂いている。	事業所では、定期的に身体拘束廃止委員会や身体拘束に関する研修を開催している。事務所に身体拘束の内容等を記載した書面を掲示し、意識づけを図っている。随時、職員間で支援に関して注意喚起を行ったり、話しあったりして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回の勉強会実施。職員の目の付くところに、虐待の注意書きを掲示している。また職員にはストレスをため込まないよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の実施。セミナー等参加の声掛けをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様には十分に説明し納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様が気軽に意見を言える様な環境づくりを心掛けている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、気づきの視点を大切に意見や要望を把握している。家族等の来訪時に、利用者の日ごろの様子を伝えるなどして、意見等を聞きとっている。把握した意見等は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	積極的に意見、提案できる環境づくりを心掛けている。	管理者は、申し送りやミーティングの際に、職員から意見や提案を聞く機会を設けている。必要に応じて、個別に話を聞くこともある。把握した意見等は、代表者に伝えるなどして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に目標を持ってもらい、達成することの喜びや、それまでの過程を十分に評価し、向上心をもって働いて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内外の研修の参加、資格取得の支援をする。また、WEBで研修が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年是他施設の見学には行けていないが、電話での情報の交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、家族様と十分話し合いを行い、思いや不安を理解し、少しでも早く信頼関係を築き、安心して過ごして頂けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が体験してきた苦労を理解し、困っていることはないか、ニーズは何なのかをしっかりと傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に本人様と面会し、話をするようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の事を理解し、尊重し関わりを持つようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は透明なカーテンなどで短時間での面会制限や電話などで利用者様の状況を伝えるようにし、定期的な便りは欠かさず行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出も少なくなっているが、手紙や電話でのやり取りをしている。ドライブは車中ではあるが馴染みの場所に向くこともある。	事業所では、電話や手紙、年賀状等のやりとりを支援している。馴染みの場所へドライブに出かけることもある。感染症対策を講じつつ、家族等の協力を得て、外出や外泊を支援するなど、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の気付きを書き留めており職員全員が情報を共有し、関係性を把握することでトラブルを未然に防ぎ、楽しく生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも手紙や電話を頂くこともある。近況を知らせて下さり、相談に乗ることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、その日の気づきを書き留めておき、翌日の申し送りで発表し、職員間で情報共有し把握するようにしている。	事業所では、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、担当職員が主となり、思いや意向の把握に努めている。把握した内容は、記録やミーティングで共有し、支援に反映している。意思の表出が困難な利用者については、表情や仕草等から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前に利用していた施設や家族様からの情報提供、またセンター方式を利用し情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、その日の気づきを書き留めておき、翌日の申し送りで発表し、職員間で情報共有し把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、気付いたこと、意見、要望を計画に反映している。必要であれば随時カンファレンスを行うようにしている。	事業所では、日ごろの気づきを踏まえつつ、利用者や家族、医師等の意見を反映した介護計画を作成している。定期的なモニタリングや見直しのほか、状態の変化がある利用者について、話しあうなど、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、その日の様子や気づきを記入し、見返すことで職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体の歪みを直す必要のある方は施術師にお願いし、福祉用具の必要な方は専門の方に相談にのっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はやや地域資源の活用は出来ていないが、コロナ過で訪問できなかった小学生から今年もビデオレターをいただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医には24時間体制をお願いしている。以前から利用している馴染のある医師には継続した医療が受けられるようにしている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的に、内科や精神科、歯科の往診がある。他科受診は、家族等の協力を得つつ、臨機応変に支援している。協力医とは、24時間対応可能な体制を整備し、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化の早期発見に努め気づきを共有し、異常があれば速やかに医師に連絡し適切な医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係者や家族様と密に相談し情報交換しスムーズに安心して入退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様や家族様と十分に話し合い、当施設で出来る最大限のケアについて説明している。担当医や協力してくれる病院と連携をとり、安心していただけるように努めている。	事業所では、入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針等について説明している。本人の心身状況の変化に応じて、家族や医師、職員で方針の共有化を図っている。職員は、看取りに関する外部研修に参加するなどして、本人や家族等の意向にそった支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し周知徹底している。救命講習にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練と、年1回の水害避難訓練を実施している。今年もコロナ禍で地域の方々の参加はなかった。	事業所では、年2回、日中と夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。災害発生時には、近隣の職員が参集する体制を整備している。今後は、地域の消防団や防火クラブの参加・協力を得た訓練を再開する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーに配慮した声掛けを実施し研修などで職員間で確認するようにしている。	職員は、日ごろから気づきの視点をもって、支援に努めている。排泄や口腔ケアの際、自分に置き換えて考え、声かけの言葉一つひとつを大切にしている。事業所は、プライバシーに関する研修を実施するなど、職員間の意識向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な出来事や表情を見逃さないように心がけている。表情が難しく自己決定が難しい方には、選択できるようなアプローチで反応見ようようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、無理強いせずにその人その人のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧を楽しんだり、好きな服を着ていただいている。散髪を希望されたら上手な職員が切ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理方法や行事食と一緒に考えたり、旬な食材を提供し季節を感じていただけるような食事を提供している。	事業所では、利用者と職員で話しあい、献立を作成している。調理には、できることで利用者に参加してもらい、やりがいに繋げている。季節に応じて、事業所の畑で採れた野菜を加えたり、誕生日に希望のものを提供したりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し管理している。その方にあった食事形態で提供、食器の検討をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。イソジンや緑茶でのうがいをする方もいらっしゃる。その人その人にあった口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録、把握をし出来るだけトイレで自立した排泄支援を行っている。排泄委員会でオムツの使用の仕方等カンファレンスを行い検討している。	職員は、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。月1回の排泄委員会で、気づきの視点を取り入れつつ、利用者に応じた排泄支援の工夫について話しあい、自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の運動機能の確保や食事、水分量にも注意している。必要であれば医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決められた日課はあるが、体調や希望に合わせて可能な限り対応している。柚子や入浴剤など楽しんで頂く。介助は出来るだけ同性介助を実施している。	事業所では、週3回は入浴できるよう支援している。同性介助を基本とし、羞恥心に配慮している。利用者の希望に応じて、入浴の順番を配慮したり、季節に応じてゆず湯を行ったりして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休んで頂いている。歌やテレビを付けて眠られる習慣のある方は他者に迷惑にならない程度の音量でお願いし、電気を付けたまま眠られる方は眠りが深くなってから消すようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の説明や薬剤師からの情報をファイルし全員が把握できるようにしている。また薬変更の場合は申し送りノートに記載し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、花のお世話等、日々の生活に役割を持ち、やりがいを感じていただいている。好きなカラオケや手芸を楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけている。外出はコロナもあり出来ていないが、近くの神社や、中庭を散歩している。	事業所では、日ごろから、敷地内の遊歩道を散歩したり、日光浴をしたりして、外気に触れる機会を設けている。利用者の希望の場所へドライブに出かけるなど、可能な限り外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして、いくらか預かっている。手元に金銭が無いと不安な方には、家族様と相談し本人に持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙支援を行っている。携帯電話を持っている方は好きな時間に電話されている。判断が難しい方は家族と相談している。暑中見舞いや年賀状の作成をし送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった環境づくりをして楽しんで頂く。光を沢山取り込んで明るい環境づくりを、また静かな場所が好まれる方は落ち着いて過ごせるような場所の提供をしている。	共用空間は、採光に配慮し、明るい。季節の行事にあわせた飾りつけを行ったり、生花を生けたりして、季節感に配慮している。利用者と職員で掃除を行うなど、清潔な空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所に行けるようにしたり、テーブルを囲んで談話されたりしている。一人でソファーに座り日向ぼっこをしたり、テレビを観て過ごされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを危険のない程度で使用していただいている。写真を飾ったり、仏間を作られている方もいらしゃる。	居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた家具や家電等を持ち込んでもらっている。仏壇の持ち込みも許可するなど、家庭的な雰囲気となるよう支援している。利用者のADLに応じて、家族等と話しあい、家具の配置を変更するなど、安心・安全で居心地のいい居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低でも月に一回はモニタリングをし、本人のできる事、分かっている事を把握し状況に合わせて、残存機能を活かし生活を送れるように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、理念を読み上げる。苑内数か所に掲示し、職員全員が同じ方向に向かいケアに携わっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナもあり、地域との交流は控えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナもあり、地域との交流は控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議が中止になっているが、2か月に一度、役場に業務報告を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議が中止になっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回の勉強会を実施している。拘束をしない為にどうすべきかを常に考える。拘束をしない事で起こりうるリスクを家族様と十分に話し合い理解を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回の勉強会実施。職員の目の付くところに、虐待の注意書きを掲示している。また職員にはストレスをため込まないよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の実施。セミナー等参加の声掛けをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様には十分に説明し納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様が気軽に意見を言える様な環境づくりを心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	積極的に意見、提案できる環境づくりを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に目標を持ってもらい、達成することの喜びや、それまでの過程を十分に評価し、向上心をもって働いて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内外の研修の参加、資格取得の支援をする。また、WEBで研修が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は他施設の見学には行けていないが、電話での情報の交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、家族様と十分話し合いを行い、思いや不安を理解し、少しでも早く信頼関係を築き、安心して過ごして頂けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が体験してきた苦労を理解し、困っていることはないか、ニーズは何なのかをしっかりと傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に本人様と面会し、話をすようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の事を理解し、尊重し関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は透明なカーテンなどで短時間での面会制限や電話などで利用者様の状況を伝えるようにし、定期的な便りは欠かさず行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出も少なくなっているが、手紙や電話でのやり取りをしている。ドライブは車中ではあるが馴染みの場所に向くこともある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の気付きを書き留めており職員全員が情報を共有し、関係性を把握することでトラブルを未然に防ぎ、楽しく生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも手紙や電話を頂くこともある。近況を知らせて下さり、相談に乗ることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、その日の気付きを書き留めておき、翌日の申し送りで発表し、職員間で情報共有し把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前に利用していた施設や家族様からの情報提供、またセンター方式を利用し情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、その日の気付きを書き留めておき、翌日の申し送りで発表し、職員間で情報共有し把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、気付いたこと、意見、要望を計画に反映している。必要であれば随時カンファレンスを行うようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、その日の様子や気付きを記入し、見返すことで職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体の歪みを直す必要のある方は施術師にお願いし、福祉用具の必要な方は専門の方に相談にのっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はやや地域資源の活用は出来ていないが、コロナ禍で訪問できなかった小学生から今年もビデオレターをいただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医には24時間体制をお願いしている。以前から利用している馴染のある医師には継続した医療が受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化の早期発見に努め気づきを共有し、異常があれば速やかに医師に連絡し適切な医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係者や家族様と密に相談し情報交換しスムーズに安心して入退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様や家族様と十分に話し合い、当施設で出来る最大限のケアについて説明している。担当医や協力してくれる病院と連携を取り、安心していただけるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し周知徹底している。救命講習にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練と、年1回の水害避難訓練を実施している。今年はコロナ禍で地域の方々の参加はなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーに配慮した声掛けを実施し研修などで職員間で確認するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な出来事や表情を見逃さないように心がけている。表情が難しく自己決定が難しい方には、選択できるようなアプローチで反応見るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、無理強いせずにその人その人のペースに合わせた対応をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧を楽しんだり、好きな服を着ていただいている。散髪を希望されたら上手な職員が切ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理方法や行事食を一緒に考えたり、旬な食材を提供し季節を感じていただけるような食事を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し管理している。その方にあった食事形態で提供、食器の検討をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。イソジンや緑茶でのうがいをする方もいらっしゃる。その人その人にあった口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録、把握をし出来るだけトイレで自立した排泄支援を行っている。排泄委員会でオムツの使用の仕方等カンファレンスを行い検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の運動機能の確保や食事、水分量にも注意している。必要であれば医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決められた日課はあるが、体調や希望に合わせて可能な限り対応している。柚子や入浴剤など楽しんで頂く。介助は出来るだけ同性介助を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休んで頂いている。歌やテレビを付けて眠られる習慣のある方は他者に迷惑にならない程度の音量でお願いし、電気を付けたまま眠られる方は眠りが深くなってから消すようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の説明や薬剤師からの情報をファイルし全員が把握するようにしている。また薬変更の場合は申し送りノートに記載し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、花のお世話等、日々の生活に役割を持ち、やりがいを感じていただいている。好きなカラオケや手芸を楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけている。外出はコロナもあり出来ていないが、近くの神社や、中庭を散歩している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして、いくらか預かっている。手元に金銭が無いと不安な方には、家族様と相談し本人に持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙支援を行っている。携帯電話を持っている方は好きな時間に電話されている。判断が難しい方は家族と相談している。暑中見舞いや年賀状の作成をし送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった環境づくりをして楽しんで頂く。光を沢山取り込んで明るい環境づくりを、また静かな場所が好まれる方は落ち着いて過ごせるような場所の提供をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所に行けるようにしたり、テーブルを囲んで談話されたりしている。一人でソファーに座り日向ぼっこをしたり、テレビを観て過ごされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを危険のない程度で使用していただいている。写真を飾ったり、仏間を作られている方もいらしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低でも月に一回はモニタリングをし、本人のできる事、分かっている事を把握し状況に合わせて、残存機能を活かし生活を送れるように心がけている。		